

平成28年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700067	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホームみのり 丸ちゃん・山ちゃん		
所在地	(〒235-0001 )		
	横浜市磯子区丸山1丁目16-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームの理念である「おいしく食べて心も体も健康に」を開設当初から柱として、新鮮でおいしい食事を提供できるようにと毎日、取り組んでいます。又、季節の行事、誕生会、外食、ホーム近辺の散策、町内の敬老会や盆踊り大会等に参加し、外の空気に触れて、単調な生活にならないように、スタッフ同士で企画を立て実行しています。</p> <p>医療機関と連携し、24時間体制で異常の早期発見、疾病の重度化を防ぎ、利用者様、ご家族に苦痛や不安を少なくできるようにし、ホームで最後をと希望された方には、充分な話し合いを持ち、医師、訪問看護師のもとで看取り介護を支援しています。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成28年12月13日	評価機関 評価決定日	平成29年3月30日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、JR根岸線根岸駅または磯子駅からバスで10分、バス停から5分ほどの住宅街にある。事業所の向かい側には、スーパーマーケットがあり、利便性に富んでいる。鉄筋3階建ての建物の2階と3階を利用した2ユニットの事業所である。1階は、同法人の小規模多機能型居宅介護事業所と調理専門スタッフが働く厨房となっている。法人の大信産業株式会社は、近隣にグループホーム、小規模多機能型居宅介護事業所、居宅介護事業所などを有し、昨年医療法人社団湘風会グループの一員となった。</p> <p><b>【食事を楽しむ】</b> 事業所は「おいしく食べて心も体も健康に」を理念に掲げている。厨房には、調理専門スタッフが勤務し、当事業所と小規模多機能型居宅介護支援事業所の食事を作っている。メニューは多彩で、毎週木曜日の夕食は「お刺身」の日と決められ、利用者は特に楽しみにしている。職員は利用者と一緒に会話をしながら食卓を共にしている。流動食であったという利用者が職員に介助されて、同じものを食べている様子を訪問時、見ることができた。また、入所して間もない利用者は、「美味しくないので出されたことがない」と話していた。利用者からは調理スタッフに向けて感謝の言葉が書かれた色紙が贈られている。</p> <p><b>【地域に開かれた事業所】</b> 事業所は、地域の夏祭りに合わせてバザーを開催し、利用者が自分の作品を売るなどして、地域の方との交流を持った。来年に向けて、地域の子供たちと交流ができるような行事を企画している。また、近隣の事業所との交換研修に4名の職員が参加し、他事業所の良いところを積極的に取り入れている。管理者は、事業所の開所時から勤務し、一昨年より管理職となっている。職員との協力体制を構築し、ボランティアや小中学校との交流の機会を増やしていく意向である。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみのり
ユニット名	丸ちゃん山ちゃん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の食生活の充実ともう一つの理念である「認め合って、支え合って、その人らしさを大切に」をスタッフで共有し、ひとりひとり違う、個性を尊重し、ケアにつなげています。	理念は、食生活の充実とその人らしさを大切にすることを掲げている。食事は、専門スタッフが作り、利用者は職員と一緒に談笑しながら食べている。また、認め合い、支え合うことは、職員間の課題であり、ミーティングで話し合いを重ねてケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者さまは、地元の方も多く、餅つき大会、夏祭り、敬老会に参加し、親しくしていた方に声をかけていただいたりと交流が続いています。	職員が地域に多く住んでおり、良い関係を築いている。今年は、町内のお祭りに合わせて、バザーを行った。来年は、町内の子供たちと交流できるような企画をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くのスーパーでスタッフと買い物をしたり、ホームに立ち寄っていただいた方には、時間を決めず、いつでも施設の中を見ていただいているので、少しずつ理解されてきています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開き、近々の活動状況をお伝えし、地域の方、ご家族から出された意見やアドバイスを伺い、サービスの向上に役立てています。	運営推進会議は、奇数月に行っている。参加者は、家族・本人・地域包括支援センター職員・町内会役員・民生委員・法人役員と職員である。事業報告、地域の防犯や高齢者の情報などの意見交換を行い、協力体制を築いている。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センターの職員には毎回、ご参加いただき、地域全体の状況や近隣の町内会の情報等を聞きながら、ご指導をいただき、連携することの大切さを学ばせていただいています。</p>	<p>昨年、区役所からの依頼で措置入所の事例があり、地域包括支援センターの職員に相談しながら対応することができた。区役所の職員に運営推進会議に参加してもらい研修の機会を作りたいと考えている。</p>	
---	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと決められていますが、認知症の進行でやむをえず、検討しなければならない時は身体拘束（施錠、ベルト、ベッド柵）の説明と同意を家族からいただき、必要な時、必要でない時と流動的に対応できるようにミーティングで話し合いをします。	身体拘束については、ミーティングの中で繰り返し話し合いをしている。現在は、夜間の転倒を予防するため、4点柵を使用している利用者がある。玄関・ユニット間は施錠をせず、外出したい利用者の気持ちに寄り添い対応していきたいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修をスタッフも受ける機会が増え、意識が高まりつつあります。施設内でも何気ない言動が虐待にならないか、お互いに注意をはらっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が各フロアにいらっしゃり、制度についての知識が浸透しつつあります。必要と思われる方、関心を持たれた方には、制度の説明、内容等をお伝えしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている、	契約時は契約書を声にだして読みながら、ひとつひとつ説明をし、納得いただいています。契約締結後も家族にホームでの様子を伝えて、話しやすい関係ができるようにつとめています。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見ボックスを設置して、家族や関係者から頂いた意見や要望をミーティングにあげて、意見を出し合い、改善すべき点は直していき、記録に残します。</p>	<p>敬老会やクリスマス会には10名ほどの家族が参加している。家族からの意見や要望は直接に伝えられ、職員間で話し合い、対応している。編み物をする家族からの提案で同じユニットの利用者全員にクリスマスプレゼントとして手編みのマフラーが準備されている。</p>	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りで情報交換をし、月に1～2回フロアごとのミーティングで議題に乗せて皆で検討します。	横浜市グループホーム連絡会主催の交換研修に4名の職員が参加し、他事業所の良いところを取り入れることができた。昨年、会社は医療法人の一員となった。管理者は、職員に法人との関係も伝えていきたいと考え、個人面談をする意向である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場を目指して努力や実績が給与、役職等に反映できるようにしています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のシフトを作る時は個々の希望を考慮しながら組み、働きやすい環境にして、スキルアップのための研修は積極的に参加できるようにバックアップしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会に加入し勉強会や他のグループホームとの交換実習に参加して、お互いの良かった点、改善すべき点を学びながら交流しています。同法人内での交流や情報交換は日頃から活発に行われています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく来られた場所が安心な所だと思っていただけるように、声をかけたり、お話をじっくりと伺っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が納得して入居を決められる様に、迷っていることや、不安なことは、何回でも足を運んでいただいたり、電話で連絡を取り合ったりしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談にご家族がいらした時に、アセスメント、日常生活状況を伺い、何が必要なのか、早い段階で見極められる様にケアの方針を決めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じて、できるところはなるべく手を出さないように、少し手があればできるところは、一緒に行いながら、自主性を妨げないようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と外食されたり、施設を訪問していただきやすいように、面会時間は決めず、一緒に食事をしたり、リクレーションにも参加を呼び掛けたりしています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くこともあり、入居前に利用されていた地域の美容院や馴染みの店、通院等はつながりを切らないようにしています。	利用者は、近隣の方が多く、友人と一緒に外出する方がいる。馴染みの美容室や商店への外出は、家族と出かけている。正月に書を書く利用者があり、利用者の家族に書道家の方がいるため、協力を依頼して、全員が参加できる企画を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で役割分担を決めたり、時にはひとつのことに皆でかかわったりしながら、よりよい関係性を築くようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、他施設へ移られた方に面会に行ったり、その後の様子をご家族から知らせていただいたり、移られた入院先や施設との情報交換もおこなっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人から何気なく発せられる言葉に日頃の思いが出ていると考えて大切に受け止め、ご本人の希望に添えるように情報を共有しています。	利用者が何を望んでいるのかをくみ取ることが仕事であると自覚し、職員には「全員の利用者と話をする」ことを求めている。「帰りたい」と言われた時の対応などを職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のファイルがいつでも手に取れるようにスタッフルームにおいてあり、ここへ来られるまでの経過や生活環境等も知ることができます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送りでその日の様子や話した言葉や行動等を伝えあい、記録に残しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向がケアプランに反映できるように介護計画をたて、日々のケアプランに載せて、同じ目標に向かってケアができるようにしています。	介護計画は、ケアマネジャーとユニットリーダーを中心に作成している。毎月のミーティングでモニタリングを行い、半年ごとに短期目標を見直している。今後は、更新時のサービス担当者会議に、家族にも参加してもらおう意向である。個人記録の上段に介護目標を記載し、職員が目標を確認しながら日々のケアが実施されている。	更新時には、サービス担当者会議にご家族にも参加してもらい充実した内容になることを期待します。

27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録、申し送り帳を見やすく、わかりやすいように作り、職員間の情報共有を行い、ケアマネジャーと連携し、サービスの質の向上に努めています。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人に限らず、他施設との交流、連携をはかり、多様化するニーズにおこたえできるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生まれ育った地域とのつながりが切れないように地域の情報を集めて、催し物等は出来る限り参加できるように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅でいらした時のかかりつけ医の通院を希望される方には継続して受診できるように協力し、施設の連携医療機関を希望の方にはスムーズに医療が受けられる様にしています。	家族対応により3名の利用者が近隣の内科医院で受診している。往診を希望する家族には、連携医療機関を紹介している。週1回主治医の指示により看護師が訪問している。医療情報は、職員間で共有し、ケアを行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師の信頼関係ができており、普段の生活の中での小さな変化や気づきを伝えて迅速な対応、指示をあげることができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合は入院先の主治医と連携をとり、時には直接お会いして退院後の生活が安心して送れる様に、指導、助言をいただいています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する施設の方針をお話し、早い時期に医師、看護師、家族で話し合いをし、同意が得られたときは看取り介護を行えるようにしています。	契約時に「重度化・終末期ケア対応指針」を説明している。利用者の状態変化時には、改めて、医師、看護師同席の上で話し合い、看取り介護の同意が得られた利用者に対し、ターミナルケアを行っている。7月に事業所で最期を迎えた利用者がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム開設からの職員もいて、入居者さまの急変や事故発生時の対応には経験を積んできていますが、これからもミーティングや研修を通して実践力を身に付け、経験の浅いスタッフに指導ができるようにしていきます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行い、できるだけ全員が参加できるように組んでいます。今年は火元、時間帯、状況と想定を変えて訓練に臨みました。その際は地域の役員、民生委員、主任ケアマネ、家族も参加しています。	7月と11月に1階の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、消防署の立ち合いの下、避難訓練を行った。運営推進会議に合わせているため、地域住民や地域包括支援センターの職員も参加している。利用者も避難訓練に参加し、利用者同士支え合う姿が見られていた。備蓄は、1階の倉庫に水・食料など3日分を用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者さま、それぞれのプライバシー、人格を尊重し、言葉づかいに気をつけ、入浴や排泄の時は、本人の意思を優先しています。	事業所は「家庭」であるという考えから、親しみを込めて「さん」づけで呼んでいる。「薬を飲ませました」ではなく、「薬を飲んで頂きました」と日頃の会話にも注意し、落ち着かない利用者や帰宅を望む利用者にも寄り添う介護を実践している。個人情報を含んだ書類は、鍵のかかるキャビネットで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か思っても上手く言葉にできなかつたりすると、イライラしたり、寡黙になり誤解が生じることもあります。会話を重ねることでお互いの思いが伝えられるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	食事の時間、日中の活動時間はだいたい決めてありますが、参加は本人の意思で決め、その日の気分に合わせて生活できるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装はご本人に好きなものを選んでいただいています。洗濯はこまめにし、整髪、髭剃り等、常に、清潔、整容を心がけています。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>美味しい食事を皆で楽しくできるように、それぞれの咀嚼する力に合わせて、食材に切れ目を入れたり、刻みにして提供しています。配膳、盛り付け、食器の片づけを職員と一緒にいき、手際の良さを発揮されています。</p>	<p>食事は調理専門スタッフが献立を作成し、1階の厨房で調理し提供している。年に2回食事レクとして、ユニット毎にメニューを決め、買い物・調理などを利用者と一緒に行う行事を取り入れている。 ファミリーレストランや回転ずしで外食をしたりハンバーガーや牛丼、カップラーメンなどを提供するなど利用者の希望に応じている。</p>	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量を必ず記録に残し、食が進まない方には好きなものを食事以外に出したり、水分摂取が少ない方には口当たりの良い物をすすめて、心配な場合は医師、看護師に相談します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おひとりずつに合わせた口腔ケアをしています。必要な方は、訪問の歯科をお願いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を職員が把握し、タイミングを見計らって誘導をし、トイレでの排泄を第一に考え、清潔に過ごしていただくようにケアをしています。	職員は、排泄チェック表から利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。2名の利用者に対しては職員2人で排泄介助を行っている。バルーンカテーテルを挿入している利用者には、職員が移動用布バックを用意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操で体を動かし、10時のおやつはバナナ、ヨーグルトと、茶、スポーツドリンク等と一っしょにお出しし、排泄表で排便の有無を確認し、処方されている方は下剤等を服用できるように服薬管理をしています。		



45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>おひとりの方に週2回の入浴を行っていますが、気分の乗らない時や拒否がある時は、無理強いはせず、時間を置いたり、声かけの職員を変えたりしながら、気持ちよく入浴できるようにしています。</p>	<p>原則、3日に1回、午後の時間帯で入浴している。同性介助の希望に応じている。入浴を好まない利用者に対しては、無理強いせず、気持ちよく入浴できるよう職員間で協力している。浴後には、利用者の希望する冷たい飲み物を提供している。</p>	
----	----	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は特にきめず、ご本人のその時の気分に合わせています。昼夜逆転する方もありますが、眠くなるように雰囲気作りをします。リネンは清潔なものを使用し、部屋の温度、湿度、照明にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的、用法、用量を薬情報で確認し、把握し、服薬の時には、二人対応で声を掛けあい、目で確認し、薬の変更があった時は申し送り帳に記載し、職員全員の目に止まるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リクレーションがマンネリにならないように職員もいろいろなアイデアを出し合い、楽しんでいただけるように工夫しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族や地域の方の協力をいただき、ご本人の希望に沿って、戸外にでかけたり、ホームでも近場では外食や夏祭り、公園散策、足をのぼして花見、初詣でに出かけたりしています。	天気の良い午前中に、近くの公園まで出かけている。事業所の前のスーパーマーケットで、昼食の食材やおやつを購入している。ドライブを企画し、お花見、いちよう並木、クリスマスのイルミネーションなどを見物し、四季を楽しんでいる。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が出来る方は所持していただき、支援が必要な方には行事、外出等のときに、ご自分で支払が出来る様にお手伝いしています。</p>		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたくなったり、電話での連絡が必要な時は、いつでも利用できるようにしています。手紙を書かれる方はいませんが、FAXで簡単な文を書いて送る方もいらっしゃいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の掃除をスタッフと一緒に、季節に合わせた飾り等をみんなで力を合わせて作り、食堂やリビングに飾っています。	居室が一行に並び、その南端に洗面キッチンと食堂がある。中央に事務室とデイルーム、風呂場があり、利用者は食堂とデイルームへの移動の際、途中にあるベンチで休むこともできる。各ユニットには、職員の写真と名前が掲示されている。手作りの季節の飾り物や観葉植物などが置かれて居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりで過ごしたい時は、自由にお部屋で過ごしていただいています。家族や友人が訪問された時も、それぞれのお部屋にご案内しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居された時に、使い慣れた家具や飾っておきたい物等を持ってきていただき、好きなようにレイアウトしていただいています。	居室は、エアコン・照明・クローゼットが設置され、個人の持ち込み品としてはベッド・カーテン・テーブル・整理ダンスなどがある。自筆の般若心経を掛け軸にしている利用者がいた。転倒を予防するために、床に布団を敷き、手すりを設置するなど、個々の利用者に合わせた居室となっている。	

55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアには見やすく書いたネームプレートと好きなマスコットや写真を飾ったりしています。床は段差をなくし、トイレ、浴室等はわかりやすいように表示して迷わず移動できるようにしています。		
----	--	---	--	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームみのり  
丸ちゃん山ちゃん

作成日 平成29年 4月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	34	内部研修が不足している。	職員全体が認知症介護についての理解を深めケアに努める。	年間内部研修予定を作成し実施する。	1年
2	26	サービス担当者会議に家族参加が不足している。	関係者の意見を反映し、より充実したケアプランを作成していく。	更新時には家族参加して頂き家族会も実施する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。